榛名神社社報

発行日　平成二十六年七月十五日
発行所　沼田市榛名町二八五一
電話〇二七八(22)二六五五
http://harunanomori.com/
発行人　金子浩隆

榛名神社由緒記

御祭神

埴山姫命（はにやまひめのみこと）（生命守護・五穀豊穣の神）

倭建命（やまとたけるのみこと）（開運・土地守護の神）

菅原道真命（すがわらのみちざねのみこと）（学問守護・災難厄除の神）

建御名方命（たけみなかたのみこと）（産業守護・健康長寿の神）

摂社・末社

大国主命（おおくにぬしのみこと）（商売繁盛・良縁結び・病気平癒・交通安全の神）

琴平宮・熊野社・稲荷社・産泰社・五柱社

厳島社・加茂社　面美様（めめよし）

元縣社・利根沼田総鎮守

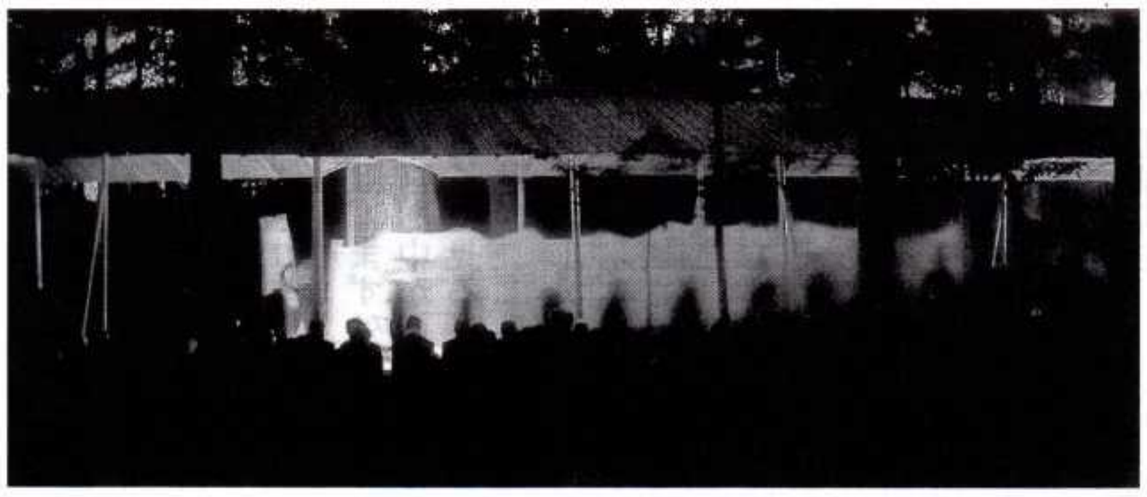
沼田氏、真田氏・本多氏、黒田氏、土岐氏と代々の城主の崇敬を受け、その由縁の品々が今も保存されている。特に本殿は享禄二年（1529）沼田顕泰の建立、元和元年（1615）真田信之により改築され、豪壮華麗な桃山文化を今に伝える。

第六十二回神宮式年遷宮
神秘なる遷御

千三百年に亘る歴史と伝統を継承する、第六十二回の神宮式年遷宮は、昨年十月二日に皇大神宮（内宮）五日に豊受大神宮（外宮）で最大の重儀である遷御の儀が厳かにそして古式のまま滞りなく齋行されました。

平成二十五年十月二日、皇大神宮（内宮）においては秋篠宮殿下のご臨席をいただき、安倍晋三内閣総理大臣をはじめとする三千名に及ぶ奉拝のもと、正午後八時より厳かに大儀が執り行われました。

浄闇（じょうあん）の中、庭燎（にわび）や松明そして提灯の灯りによって浮かび上がる古式による祭祀の荘厳さと静謐な時の流れ。原生の杜から時々冴え渡る鳥の声や虫の音、そして鹿の鳴き声、正に神宮の森すべての気配が神秘さを以って迫り、やがて鶏鳴所役の唱える「カケコー」「カケコー」「カケコー」の鶏鳴三声が響き渡る。



いよいよ「出御」の刻。

焚かれていた庭燎（にわび）が濡筵（ぬれむしろ）に覆われて、参拝席の灯りも消え、道楽の調べに祭列は緩やかに正宮御門を出て石段を降り、絹垣（きんがい）に覆われた神儀は東から西の新宮へ。

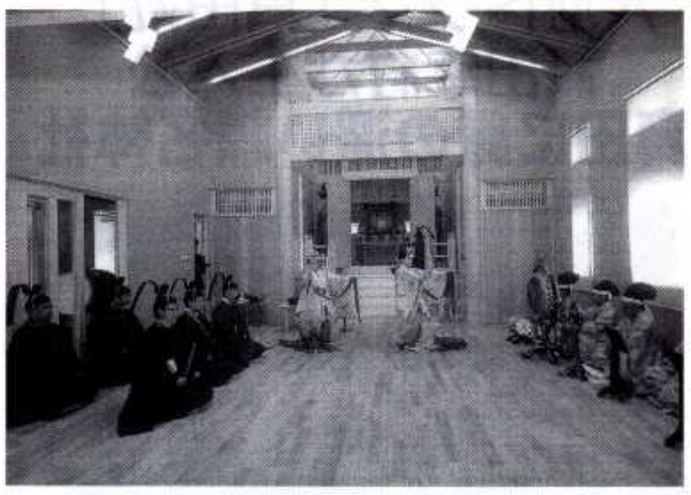
祭列の前には、御楯、御鉾、御靭（おんゆぎ）、御弓、御翳（おんさしは）、御太刀、御蓋（おんきぬがさ）の神宝が先行し、後には、御蓋（おんきぬがさ）、御笠、御靭（おんゆぎ）、御楯、御鉾が随行。

ほのかに篝火が前後を照らし、楽師の奏でる笙（しょう）篳篥（ひちりき）和琴（わごん）の調べが緩やかな祭列を包み、ご神体は新宮に入御されました。

八年前から始まった遷宮に係わる諸祭、諸行事もすべて終えられ、また次回第六十三回遷宮が始まる。次の遷宮に向かってさらに新しい歴史と伝統を積み重ね、世代を超えて、世界無比の式年遷宮という、誇るべき祭儀の発展・継承に取り組んでいかねばなりません。

〈神宮司廳発行　瑞垣〉〈御遷宮対策委員会公式記録写真集「遷宮」〉より

群馬県神社庁神殿・新庁舎竣工



群馬県神社庁の新しい庁舎が完成し、六月二十五日来賓に神社本庁田中恒清総長や県神社総代会　牛久保智昭会長をお迎えし、神殿・庁舎竣工奉告祭が行われた。

県神社庁はこれまで高崎市赤坂町の高崎神社境内の施設を借用していたが、新庁舎は、高崎市八千代町の県護国神社の境内と高崎高校グラウンドの隣接地に整備された。

竣工奉告祭では「浦安の舞」が奉奏され、貫前神社の権禰宜と当社権禰宜の小野里礼佳が奉仕した。

【写真は新庁舎と浦安の舞＝上】

平成二十六年八月三・四・五日

◇祇園祭執行について◇

左記の通り、祇園祭についての日程等をご案内申し上げます。

本年度当番町　桜町

一、日程

八月三日(日)

午前七時二十分　神璽奉遷・神輿発幸祭　榛名神社
午前八時　渡御　大鳥居からは車→薄根町→清水町→榛名町→西倉内町→東倉内町→材木町→西原新町→東原新町→上原町→桜町→高橋場町→柳町
午後一時頃　柳町祭典事務所着
午後三時　奉仕団により柳町を出発
午後三時三十分　縣社会の山車による奉迎・修祓
午後四時頃　仮宮着御祭　仮宮
午後六時　恒例大祭　仮宮

八月四日(月)

午後五時　還幸祭　仮宮

八月五日(火)

午後四時二十分　還御（奉仕団による）
午後五時　須賀神社神輿との競演　市役所前広場
午後八時　宮入り・本殿着御祭　榛名神社
午後十時

一、本年度仮宮　材木町　神明宮南側駐車場

新奉製の六文銭の「叶守」と「勝守」

真田家の紋「六文銭」は戦場に赴く際の決死の覚悟を家紋・旗印としたものという説、冬の天上にあわく輝くスバル星（プレアデス星団）を旗印にしたという説などがある。

天下分け目の関ヶ原の戦いで徳川方につき父昌幸、弟幸村と戦って勝利した、沼田城主真田信之は大阪夏の陣のあった一、六一五年に当社本殿を改築。真田の利根沼田統治の安泰と領国の平安を祈念したと伝えられる。

当社本殿正面内陣御扉上の桁には、真田家の家紋「六文銭」がしるされている。

【写真右から『勝守』と『叶守』】